

第1学年 学級活動（1）指導案

1 議題 「クラスみんながたのしくなるあきまつりをしよう」

学級活動（1）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

（1）児童の実態

本学級の児童は、外遊びが大好きな児童が多く、休み時間はほぼ全員が外へ遊びに行く元気な学級である。一方、基本的な生活習慣や話の聞き方に課題があり、「目と耳と心で聞く（聴く）」、そのためには「手を止めて聞く（聴く）」ということを繰り返し指導してきたが、特に7月までは、静かに取り組むことのよさを児童自身がなかなか実感できていない状況であった。

そこで、学級会を通して児童が聞くことのよさや必要感を実感することで、学級会以外の場面での話の聞き方にもよい影響を与えようと考え、夏休み明けから取り組むこととした。夏休み明けにオリエンテーションを開き、学級会に取り組み始めた。第1回は、「ロングひるやすみにみんなであそんでなかよくなろう」を議題に、「みんなが一緒に楽しめる遊びを考えよう。」というめあてのもと、学級会を行った。行事の関係で計画から実施までの日が空いてしまったが、児童は実施日を心待ちにしており、実際に行った後は、「楽しかった。」「また計画したい。」という感想が挙がった。第2回は前期末に「ぜんきががんばったねしゅうかいをしよう」という議題で、自分たちで初めての集会活動を計画し、実施した。この経験をもとに、秋の集会活動の計画・実施にもつなげていくことができればと考える。クラス全体で一つのことを成し遂げる経験がまだ浅い1年生の児童にとって、クラスみんなが楽しくなる季節のお祭りを集会活動として行うことで、学級会→準備→実践→振り返りという一連の流れを繰り返し経験することは有意義であるといえるだろう。

これまでの学級会の成果と課題は、以下のようなものであった。

	議題と話し合うこと	成果（○）と課題（▲）→改善方法
第1回 （9／9金）	議題 ロングひるやすみにみんなであそんでなかよくなろう。 話し合うこと ①晴れの場合の遊び ②雨の場合の遊び 9/21（水）実施	○発言した児童は、初めてなりに一生懸命理由をつけて話そうと努力しており、中には「〇〇さんに付け足しです。」「さっき〇〇さんが言っていたとおり・・・」などと、友達の意見と関連付けて発言できる児童もいた。→手本となる話し方ができた児童をその場でほめることで、目指す姿を明確にした。 ○出された意見が、提案理由やめあて、決まっていることなどの条件に合っていないことに気付き、発言できる児童がいた。「粘土はみんながばらばらで遊ぶものなので、反対です。」「算数セットは1人か2、3人で遊ぶものなので、みんなで一緒に遊べないと思います。」 →発言した児童をほめ、提案理由やめあて、決まっていることに目を向ける大切さを伝えた。

		○発言した児童は全体で半数だったが、発言しない児童も大多数は普段の様子よりも話を聞こうとする姿勢が見られ、友達の意見に「いいと思います。」などと反応を示すことができていた。 →例え自分から発言できなくても、友達の意見に反応することは立派な参加の仕方だということを伝え、自信を持たせるようにした。 ○友達の発言の仕方や聞き方のよさに気付き、感想として書いた児童が見られた。 →感想を紹介し、よさに目を向けていることを称賛するとともに、目指す姿を明確にした。 ▲話合いが時間内に終わらなかった。 →次回から、「話し合うこと」は1つにしぼる。
第2回 (9/30金)	議題 ぜんきががんばったねしゅうかいをしよう。 話し合うこと あそびを2つきめよう。 10/5(水) 実施	○話合いの途中に、他の職員に見守りを頼み担任が不在になる時間があったが、児童の力で話合いが継続できた。 →進行した計画委員と、協力して話合いに参加した児童全員をほめ、自信をもてるようにした。 ○時間内にまとめることができた。 →話し合うことは1つでよい。 ▲事前に学級会ノートには書かれていたが、発表されない意見があった。 →条件に合っていないことに気付いて発表しなかった意見もあると思われるが、条件に合っているのに出ない場合は、個別に発表を勧めたり、司会者から聞いてもらったりするようにする。
第3回 (10/17月)	議題 こうきのかかりをかんがえよう。 話し合うこと あったらいいなとおもうかかりをきめよう。 10/20(木) 分担決定、活動開始	○前回同様、事前に学級会ノートには書かれていたが、発表されない意見があった。今回は司会者と担任が促すと、5人が追加で意見を出すことができた。 →発表した児童をほめ、勇気を出して発言したおかげでより多様な意見が集まったことを伝えることで、目指す姿を明確にした。 ○自分から手を挙げた児童だけでなく、友達の発言に「でも・・・」とつぶやいた児童にも声をかけ、全体への発言を促した。反対意見を出しても大丈夫だという安心感がもてた児童もいた。 →感想を紹介し、安心感を共有できるようにした。 ○「〇〇がいいとおもいます。わけは・・・からです。」という理由とともに発言する話し方が身に付いてきた。理由を話していない児童には、司会者が「訳を言ってください。」と、その場に応じて対応することができた。 →話し方が身に付いてきたこと、司会が気付いて理由を尋ねたことをほめることで、目指す姿を明確にした。 ▲意見の短冊で黒板がいっぱいになり、見やすさに欠けていた。 →議題、提案理由、めあて、決まっていることまでの掲示は、黒板外に移し、黒板は話し合うことのみとする。

		▲多くの児童に発言させたいという考えで、案を出すところから始めたが、予想以上に時間がかかり、話し合いが時間内に終わらなかった。 →今回のように、学級会ノートに書かれた意見の種類が多いときは、意見はあらかじめ黒板に掲示しておき、質問から始めた方がよい。
--	--	---

これらの成果と課題から考えた改善方法をもとに、第4回学級会を実施する。

（２）議題選定の理由

本議題は、学級活動（１）「学級や学校における生活づくりへの参画」の内容ア「学級や学校における生活上の諸問題の解決」にあたる議題である。この内容において育成を目指す資質・能力としては、「学級や学校での生活をよりよくするための話し合いの進め方やよりよい合意形成の図り方について理解すること、生活上の諸問題を自分たちの課題として捉え、多様な意見を認め合い、よさを生かし合いながら考え、伝え合い、合意形成することができるようにすること、合意形成したことに基づき協働してよりよい生活ができるようにすることなどが考えられる。」と例示されている。

話し合いにまだ慣れていない本学級では、まずは自分たちの課題に目を向けることよりも、自分たちの学級生活をより楽しくするための話し合いの方が、自分事として主体的に話し合いに臨み、その後の活動にもつながると考え、本議題を選定した。楽しくするための話し合い、実践を複数回積み重ねることで、話し合いの進め方やよりよい合意形成の仕方を徐々に理解することができ、生活上の諸問題の解決につながるような議題にも、同様に取り組めるようになると考える。

児童は、生活科「あきとあそぼう」の学習において、「秋の自然や町とかかわる活動を通して、秋の特徴に気づき、自然のものをを使って楽しく遊ぶことができるようにする。」という目標のもと、校庭や学校に隣接する森で秋探しをし、木の葉や木の実を集める中で、それらを使って思い付いた遊びを行ったり、教師から紹介された遊びに取り組んだりして、遊ぶ活動をしてきた。活動の中で、「もっといろいろな遊びをしたい。」「自分の知っている遊びを友達に教えたい。」などの声上がり、「秋祭り」を開きたいという案が出てきたことを生かし集会活動を計画することとした。

また、他教科の学習では、席を移動して作品を紹介し合う活動を好む児童が多く、他にも、委員会主催の図書委員体験を楽しみにしている様子が見られる。こうした実態から、お店屋さん形式の活動は、児童同士の交流が生まれやすく、児童の実態に合っていると考え、本議題を選定した。

３ 研究主題とのかかわり

特別活動部会の研究主題、研究目標、研究仮説は以下のとおりである。

研究主題

「自主的、実践的に活動し、生きる力を身に付けた児童生徒の育成」

－ 主体的・対話的で深い学びの実現を通して－

研究目標

学級活動等の集団活動を通して自主的、実践的に取り組む態度を育成するとともに、育成すべき資質・能力を明確にし、新学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の在り方を探る。

研究仮説

- (1) 学級活動等の集団活動において、集団の実態を踏まえ、一人一人の児童生徒の課題意識や役割分担を明確にし、活動の過程を具体的につかませ、主体的に活動に取り組ませれば、児童生徒の集団への帰属意識や活動での達成感が高められ、自主的、実践的態度が育つであろう。
- (2) 学級活動等の集団活動において、課題の設定・確認、解決方法の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、育成すべき資質・能力を明確にした上で意図的・計画的に指導に当たれば、深い学びにつながるだろう。

○集団の実態を踏まえた役割分担、活動の過程のつかませ方

話の聞き方に課題があるという実態からも、計画委員会の役割を明確にし、輪番制で取り組ませることで、全員が同じ活動の方法で運営側を経験し、聞いてもらう必要性を知り、聞くことのよさや大切さを実感できるようにしたい。

○育成すべき能力・資質を明確にした意図的・計画的な指導

初期の段階として、学級での生活を楽しむための議題を選定し、話し合い、実践を複数回積み重ねることで、話し合いの進め方やよりよい合意形成の仕方を徐々に理解し、生活上の諸問題の解決につながるような議題にも、同様に取り組めるようにし、深い学びにつなげていきたい。

4 第1学年及び第2学年評価規準【学級や学校における生活づくりへの参画】

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しむために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しむために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。	学級生活を楽しむために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

5 事前の活動

(1) 計画委員会の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【評価の観点】〈評価方法〉
10/24 (月) 休み時間	・役割分担をする。 ・議題を選定する。	・どの役割も重要であることを伝え、気持ちよく分担できるようにする。 ・選定しなかった提案の扱いを明らかにする。	・よりよい学級生活づくりのために、進んで議題を選ぼうとしている。 【主体的な態度】 〈観察・発言〉

10/24（月） 帰りの会	・みんなに議題を提案する。	・選定した議題について学級全体に知らせ、承認を得る。	
10/25（火） 休み時間 10/26（水） 休み時間	・提案理由、めあて、決まっていること、話合うことを考え、学級会ノートを作成する。	・誰もが分かる言葉になるよう、児童と一緒に考える。	・秋祭り集会を開くために話し合わなくてはならないことや、学級会の進め方を理解している。 【知識・技能】〈観察・発言〉
10/27（木） 休み時間	・みんながどんな意見をもっているかを知り、意見を短冊に書く。	・全員の学級会ノートに事前に目を通し、話合いの見通しがもてるようにする。	
10/28（金） 休み時間	・学級会の進め方の練習をする。	・通して練習することで、学級会全体の流れをつかめるようにする。	

（２）学級全員の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【評価の観点】〈評価方法〉
10/24（月） 帰りの会	・議題を決定する。	・計画委員会の提案をもとに全員で決定する。	・よりよい学級生活づくりのために、計画委員会の話に耳を傾け、進んで議題決定に参加している。 【主体的な態度】〈観察〉
10/27（木） 朝学習	・学級会ノートに自分の考えを記入する。	・提案理由、めあて、決まっていることが共通理解できるよう助言する。	・めあてに沿った意見を考え、理由とともにノートに書くことができる。 【思考・判断・表現】 〈学級会ノート〉
10/31（月） 朝の会	・学級会ノートを受け取り、話合いへの意欲を高める。	・学級会ノートに丸印やコメントを記入することで、自信をもって話合いに臨めるようにする。	

6 本時の活動

（１）本時のねらい

○クラスみんなが楽しめる秋祭りの計画を考えることができるようにする。

(2) 本時の展開

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿 【評価の観点】〈評価方法〉
1 始めの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認	・和やかな雰囲気ではじめられるように、児童の気持ちを落ち着ける。 ・自分の名前と役割がはっきりとした声で言えるように、事前に指導する。	
クラスのみんながたのしくなるあきまつりをしよう。		
4 提案理由の確認 5 めあての確認 6 決まっていること ・11月10日(木) 2・3校時に、教室と活動室で行う。 ・お祭りのお店は生活科の学習で決めたもの ・はりえ、おめん ・けんだま ・どんぐりごま ・まとあて ・マラカス ・おちばのカード(トランプ、かるた、めんこ) ・やじろべえ	・提案理由、めあて、決まっていることを全員が理解できるように、事前に指導する。 ・「クラスのみんなが楽しくなる」「秋らしい」を意識させる。 ・日時と場所を確認する。 ・お祭りのお店は生活科の学習で決めたので、今回はお店以外の工夫を話し合って決めるということを確認する。	・提案理由やめあては何だったか、確かめながら聞いている。
7 話合い 話し合うこと お店の他に何をするか。 ・秋の歌を歌う。 ・秋クイズをする。 ・スタンプカードを作る。 ・飾り付けをする。など	・学級会ノートに書いてあった意見は、事前に短冊に書き、あらかじめ黒板に掲示しておく。 ・なかなか思い浮かばない児童には、生活科の学習で体験したものを思い出して意見を出せるよう、事前に指導する。	・生活科の学習や前回の集会を生かして、秋祭り集会の内容について考えている。 ・クラスみんなが楽しめる活動はどれか、めあてを考えながら発言したり、聞いたたりしている。 【思考・判断・表現】 (観察・発言)

	・学級会ノートに書いた後新たに思い浮かんだ意見や、書いたのに出ていない意見がないか、初めに確認する。 ・出された意見に対する質問がないか尋ね、あれば発案者に回答を促すよう、司会者に指導しておく。 ・発案者が回答できない場合や説明が足りない場合は、司会者が他に説明できる児童を募るよう声をかける。 ・賛成・反対意見は、意見を出し切った後にするよう、事前に指導する。 ・賛成意見にはピンク、反対意見には水色のマグネットを並べて貼ることで、意見の視覚化をして分かりやすくする。 ・理由とともに発言できるよう促す。 ・周りの児童へのよい手本となるよう、発言の仕方や聞き方がよい児童をほめる。 ・その場で披露するもの（歌やクイズなど）と、事前に作るもの（カードや飾りなど）とに分けて整理して掲示する。 ・「行う」と決まったものは短冊を上にならずらし、「行わない」と決まったものは短冊を下にならずすることで、視覚的にわかりやすくする。	
8 決まったことの確認	・ノート記録係が漏れ落ちなく発表できるよう確認し、決まったことを学級全体で共通理解できるようにする。	
9 話合いの振り返り	・自分や友達の話し方、聞き方を振り返り、ノートに書くよう促す。時間があれば紹介する。	

10 先生の話	・計画委員の頑張りを称賛し、話合い でよかったことを伝え、次回への意 欲をもてるようにする。	
11 終わりの言葉		

7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【評価の観点】〈評価方法〉
11/1（火）	・役割分担をする。	・どの役割も重要であることを伝え、気持ちよく分 担できるようにする。	・よりよい学級生活づくりの ために、進んで役割分担や 準備をしている。 【主体的な態度】 〈観察・発言〉 ・秋祭り集会を開くために必 要な準備を理解している。 【知識・技能】 〈観察・発言〉
11/ 1（火） ～ 11/ 9（水） 生活科 休み時間	・担当ごとに準備をする。	・担当ごとの進み具合を見 ながら、必要に応じて助 言したり手伝ったりす る。	
11/10（木）	・秋祭り集会を行う。 ・終了後、振り返りを行う。	・めあてを確認し、計画し たことが実践できるよ う支援する。	
			・クラスみんなが楽しめる秋 祭り集会になるよう、仲良 く助け合って実践してい る。 【思考・判断・表現】 〈観察・発言〉